

## ★シロイチモジヨトウ情報

今後、シロイチモジヨトウによるネギ等の野菜類、豆類および花き類への被害が急増することが予想されます。

## 1. 発生状況および今後の展開

7月中旬に実施した巡回調査におけるネギ大株でのシロイチモジヨトウ(写真)の発生量は平年並(ただし、発生ほ場率は例年比高い)でしたが(表1)、フェロモントラップへの誘殺数は亀岡市で例年並、京田辺市および京丹後市では例年比多くなっています(表2)。さらに、大阪管区气象台7月17日発表の近畿地方1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、今後、本種の増殖しやすい気象条件が続き、ネギ等の野菜類、豆類および花き類への被害が急増することが予想されます。

表1 巡回調査結果(ネギ\*、シロイチモジヨトウ、7月中旬)

| 調査項目     | 本年(例年比)   | 例年    |
|----------|-----------|-------|
| 幼虫数(頭/株) | 0.027 (並) | 0.021 |
| 寄生株率(%)  | 1.3 (並)   | 1.3   |
| 発生ほ場率(%) | 66.6 (高)  | 21.7  |

\*葉長40cm以上の大株での調査

表2 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数\*

| 調査場所 | 本年(例年比)  | 例年   |
|------|----------|------|
| 京田辺市 | 62.8 (多) | 30.7 |
| 亀岡市  | 36.8 (並) | 45.6 |
| 京丹後市 | 59.5 (多) | 35.3 |

\*6月第4半旬～7月第3半旬の合計値



写真 ネギでのシロイチモジヨトウの卵塊(左) 幼虫(中)、被害株(右)

## 2. 防除上の留意事項

- (1) 齢が進んだ幼虫では農薬の効果が著しく低下するので、**若齢幼虫期の防除が重要**です。
- (2) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、一箇所にとめて積み上げ、虫の拡散を防ぐため、表面をビニルで被覆する等、適切に処分してください。
- (3) 寄主範囲が広く、**ネギ等の野菜類、豆類および花き類を加害する**ので注意してください。
- (4) **技術資料「シロイチモジヨトウ防除における化学農薬使用回数の削減マニュアル（2025年）」**

[https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual\\_202502.pdf](https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual_202502.pdf)

注意：農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。

